

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成27年6月18日実施】

平成26年度自己点検自己評価(平成26年4月1日～平成27年3月31日)による

記入者氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育人材像	1-1-1 理念・目的・育人材像は定められているか	3		教育理念・目的・育人材像は、明文化・文章化されており、会議や研修等においては、これらを用いながら行うことで理念等の普及・徹底を実現している。また、マーケティングとイノベーションにより、社会の新たな人材ニーズを見出し、育人材像として明確化して学科を創設してきた。学生には導入教育にて学生便覧の読み合わせを行い、将来像を明確に示している。	① 実学教育・・・特定の職種で、即戦力となる専門的な知識・技術（テクニカルスキル）を身につける。 ② 人間教育・・・いかなる職種でも必要なプロとしての身構え、気構え、心構えを持った職業人を養成する。 ③ 国際教育・・・在学中からコミュニケーション言語としての英語、および専門英語を身につけるばかりでなく、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う。 これらの理念と、①学生保護者からの信頼②業界からの信頼③高等学校からの信頼④地域からの信頼 を大切にし文章に落とし込んだ「滋慶語録」という冊子に沿って毎朝礼で理念の確認を行っている。		・伝統があり実績も重ねている学校でありながら、それに甘んじることなく常に高い目標を掲げ、業界の求める人材像を把握し教育に反映している姿勢は職業人教育を通して社会貢献するという学校理念を達成しようという教職員の強い熱意が感じられました。また、専門教育という自学科に偏りがちな知識を「ごちゃまぜ研修」で医療連携を学び、幅広い知識を持たせるシステムは学生の将来の強みとなると確信します。 ・3つの教育理念と4つの信頼を今後とも継続してもらいたい。業界のニーズと学生とのギャップは年々増加傾向にあると思う。この様な取り組みにより、業界との連携を保ち事が重要！！
	1-1-2 育人材像は業界等の人材ニーズ像に適合しているか。育成に関連業界の協力を得ているか。	3		教育課程編成委員会や業界講師面談、業界訪問等により、業界が求める人材像を明確にするとともに、教育課程・授業計画等策定に活かしている。	業界（実習先）訪問は、キャリアセンターの他、学生の個別状況やカリキュラム、各授業内容を把握している担任も行い、業界のニーズと学生のギャップをリアルタイムで把握するよう務めている。また、就職関連イベントでは業界の方から直接フィードバックを頂き、学生指導に役立てている。	3・2・1	・業界連携の考え方に賛同します。推進されるべきです。 ・業界を取り巻く環境は、刻々と変わってきており、その変化に対応した人材を業界が求めています。そのニーズに合わせた人材の育成を適切に行っていると、感じました。
	1-1-3.4 理念の達成、業界ニーズに適合する将来構想を抱いたうえでの教育活動に取り組んでいるか。	3		平成26年度は多様な学生に対応できるように「ひとり一人に合わせた教育」を実施することと他学科との協働により「チーム医療教育」のシステムを確立することを目的とした。そのことにより、必要とされる資格を取得し、永続的に医療現場で活躍できる人材の養成を目指している。常に5年先を見据えて事業計画を立てて遂行しており、将来構想を明文化し教育＝人材育成の視点で捉え運営に結び付けている。	チーム医療教育の一環として、入学当初全学科の1年生を混在させ「ごちゃまぜ研修」を実施、自学科理解・他学科理解と相互支援的環境づくりを行った。また、新入生に主体的な参加を呼びかけ医療ゼミを発足させた。1年間を通じ、医療連携を学び、年度末の卒業研究発表会において成果を発表した。理念達成の為の目標は ①中途退学者を0名にする。 ②入学定員充足率を100%にする。 ③就職後、1年以内の離職者を0名にする。		・貴学の根幹である教育理念について、小冊子を使いながら毎朝確認し、さらに人材の育成も図りながら研修を重ねていることに安心感を覚えます。また就職後の離職者を0名にする目標は、受け入れた企業からみれば人材確保で信頼する学校だとのイメージが強くなるものと思います。 ・実学という理念、目的が明確であり業界のニーズを的確に把握されている事で、評価できると思います。

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
2 学校運営	2-2-1 運営方針は定められ、教職員に周知・浸透されているか	3		学校事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決済を受け、承認を得ている。 また、学校の事業計画は毎年3月の初旬に研修を行い、全教職員へ周知徹底している。	本年度における運営方針は以下の通りである。 ①組織の情報の一元化とマネジメント人材の総合力UPをしていく②『チーム医療教育』のコンテンツを確立する③キャリア教育を軸にした「70・0・0」のブランドを構築する。 この運営方針を教職員に周知・浸透し、各部署毎の運営方針を定めている。 「70・0・0」＝出願率70% 退学者0名 1年以内離職者0名	3・2・1	・事業計画は教職員が自立的に決定し意思統一が図られている点がすばらしいと思います。全員が同じ方向に向かって取り組むことにより安定した学校運営がなされていることを実感しました。 ・運営方針、事業計画が実行される様、定められている。また、運営方針の「70・0・0」は興味深い。特に業界にとっても、離職者対策は、一つの課題である。 ・関係者が共通認識を持ち、学校運営に携わる事が重要だと思います。理事会、ミーティング、会議の実施を行い、運営体制作りができています。
	2-3-1 事業計画は理念等を達成できるように定められているか	3		学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。 また、事業計画を教職員が自立的に計画・決定し全員で共有している。 その上で、職場運営が実行されていく。	事業計画の構成は以下の通りである。 ①組織目的②運営方針③実行方針④定量目標⑤定性目標⑥実行計画⑦組織図（単年度）⑧職務分掌⑨部署ごとの計画及びスケジュール⑩附帯事業計画⑪職員の業績評価システム⑫意思決定システム⑬収支予算書		・学校経営が独善的にならないよう、学校運営会議・法人理事会及び評議員会の承認を受けながら適切に運営されています。同時に組織的、計画的な方針を立案しながら、そのメンバーも必要に応じて参加が選ばれるなど他校には見られない、アイデアや運営方法が取り込める方法は称賛に値するものと思います。
	2-4-1,2 理事会は適切に開催されているか。また、運営組織や意思決定機能は体系化され、効率的なものになっているか	3		理事会は年4回実施されており、各理事会毎に組織全体に議案の確認をしている。また、議事録は関係部署に公開されている。 運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されており、その全体像は、事業計画書の組織図に示されている。	運営組織や意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年、厳しい事業計画策定を行うことで、目標志向性の高い組織運営が行われている。事業計画作成時に各理事会での議案も作成しており、議案提出時に漏れや変更が無いかを運営会議で確認をしている。		・IT化も進み、業務の効率化が進められているのは良いと思います。教職員の皆さんのチームワークの良さ、学校運営に対する協力の姿勢を感じました。
	2-5-1 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3		採用にあたっては、学校だけではなく学園本部も採用広報、採用試験を実施している。 目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。	目標の達成度は本人評価も含まれる。また、数値で評価できない業務についてはプロセス評価も導入しており、上長の評価は本人と面談をしたうえで決定する。その評価についての妥当性は運営会議にて全マネージャーで決定をし、評価に矛盾の無いようにしている。本人による目標設定も毎年行い、評価と同様に全マネージャーで目標の妥当性を確認し承認していく。 目標達成に向けての進捗状況に対しての上長面談を定期的に行い、達成に向けての支援、協力を行っている。		
	2-6-1 意思決定システムは確立されており明確になっているか。	3		意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で各リーダーに権限は委譲されている。	以下の会議・ミーティングの議題・議事録は関係者に配信され意思の統一を図っている。 ①常務会②グループ戦略会議③B B B会議④運営会議⑤全体会議⑥部署別会議⑦プロジェクト会議⑧O・N・O（上長面談）⑨講師O・N・O⑩T B M(ワルボックスミーティング)⑪朝礼・昼礼・終礼 T B M(ワルボックスミーティング)は定例会議まで待てない懸案事項について即時、利害関係者を招集し協議決定にあたる場である。		
2-7-1 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3		既存のシステムで業務の効率化は図られているが、ここ数年は、システムの移行を進め更なる改善に繋げており継続的な効率化を推進している。	①学籍簿②時間割、成績・出欠管理③学費④入学希望者⑤各種証明書⑥求人・就職⑦卒業生⑧学校会計⑨人事・給与⑩研修旅行⑪学生寮⑫健康管理等がA S 400 (IBM)によってシステム化と構築がされている。学生に関する情報は汎用性の高いwindows P Cやipadを利用し即時に情報共有をし、学生対応ができる取り組みを開始しており、更に教職員のニーズに答えられるよう改善を続けている。			

大項目	点検・評価項目	自己評価		特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	自己点検・自己評価項目総括		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
3 教育活動	3-9-1,2 教育の目標・目的に沿った教育課程を編成し外部の意見も反映しているか。	3	教育課程の編成については、教育課程編成委員会や業界訪問などにおいて、現状のニーズや入学する学生の状況を鑑みながら、養成目的、教育目標の見直しを毎年実施している。	教育課程の編成時には、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での意見や評価、卒業生が勤める業界の方や講師などからヒヤリングを実施して、業界動向などの分析シートを作成してから、カリキュラム編成作業に入る形になっている。	3・2・1	・資格取得に向けて入学前から対策プログラムが構築されていることが好評です。また、業界、地域、学科を超えての連携に積極的に取り組むなど、常に改善向上を図ってキャリア教育を行っていることが、資格取得率向上につながっていると思います。
	3-9-3 キャリア教育を行なうために教育内容等の工夫をしているか。	3	キャリア教育ロードマップを作成して指導の方向性、方略を徹底している。また職員は学園内にキャリア教育に関する指導・支援について、研修を受講している。各学科でキャリア教育プログラムを作成し実施をしている。	導入教育時から学習方法の指導・支援、スケジュール管理、短期目標の明示、職業人としてのマナーやコミュニケーション、サービスマインドの教育を始めている。 学校行事もキャリア教育に位置付けており ・メディカルフェスティバル(全学科対象) ・テクニカルチャンピオンシップ(救急救命士科) ・デュアルシステム(薬業科・医療事務科) ・江戸川区歯科医師会連携(歯科衛生士科) ・小学校眼科検診補助(視能訓練士科) ・失語症友の会運営ボランティア(言語聴覚士科) ・学外研修(全学科対象) ・臨床工学技士会連携学会発表(臨床工学技士科) ・サービスマインド研修(薬業科、医療秘書科、医療事務科) ・こども教室(こども心理科) など これらの行事を通じて、学生が社会性を身につけ適応力を兼ね備えた人材として業界に輩出できるよう教育の工夫をしている。		・教育の目標、目的に沿った工夫が大変努力されていると思います。また、学生に対し授業アンケートを実施し、改善することで教育成果に直結する取り組みは評価できる。
	3-9-4 授業評価を実施し、授業改善に活用しているか。	3	前期・後期の各1回、学生に授業アンケートを実施している。評価体制としては、授業アンケート結果と、オープン授業（公開授業）を通して、各講師の専門性の把握及び評価を行い、フィードバックを行うことで改善を促している。	授業アンケート、オープン授業を実施し、教務部長もしくは学科長が講師と面談を行い、授業の問題点に対する課題提案をし、授業改善につなげている。また、定期開催される講師会議や全体会議を通して、成功事例の共有化も図っている。更に、授業評価の高い先生の授業見学や勉強会を実施することで確実な教育成果に結びつくよう取り組みを継続している。		・授業評価を学生にアンケート方式で実施し、さらに公開授業の結果から授業内容を検証するなど、慣れからくる教育内容の停滞や授業のおさなりを防ぐ試みは高く評価できます。さらに資格取得の対策やひとり一人の状況に合わせた授業体制は在籍している学生ばかりか、保護者にとっても入学させた目的のための指導だと安心感が広がるものです。
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確にしているか。	3	単位履修、成績評価については、学生便覧に学則施行細則として明記し、全学生に説明を実施している。また教務会議、進級判定会議などにおいて、成績評価、単位履修についての共通認識を確認している。	入学時、進級時に担任より、学生便覧の読み合わせを行い説明をしている。また、最初の定期試験前には、担任より再度説明を行っている。保護者へ向けには保護者会で説明を行っているが、成績表発送時にも成績評価・終了認定基準を文書化したものを同封している。		・新任教員に対する指導等、充実していると考えます。キャリア教育を徹底している点がすばらしいと思います。
	3-10-2 学生の受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	学生の受賞や研究実績は随時把握できるよう、関連機関や学生個々との関係構築に務めている。賞や研究の内容によっては、卒業時に表彰する形式を取っている。学内で推薦・選考する賞は、運営会議にて担当者がプレゼンを行い会議メンバーで協議のうえ決定している。	主な表彰：理事長賞、学校長賞、東京都専修学校各種学校協会会長賞、医療秘書技能検定会長賞、医事コンピュータ技能検定会長賞、日本語聴覚士協会会長賞、全国リハビリテーション学校協会優秀賞、近畿大学九州短期大学学業優秀賞、保健児童ソーシャルワーカー協会賞、ピアヘルパー協会賞、日本視能訓練士協会優秀賞、全国視能訓練士学校協会優秀賞、全国救急救命士教育施設協議会成績優秀者表彰、日本臨床工学技士会会長賞、日本臨床工学技士教育施設協議会代表理事賞、滋慶教育科学研究所審査員特別賞、滋慶教育科学研究所奨励賞、滋慶教育科学研究所努力賞		・目標、目的を明確化した意識向上への工夫がされている。
	3-11-1,2 目標とする資格は教育課程上、計画に位置付け、取得の指導体制はあるか。	2	取得目標資格に向けての内容や資格対策授業については入学時に学生便覧にて詳細を説明して、資格取得の動機付け教育を行っている。資格合格プログラムは毎年見直しを実施。不合格者、卒後指導体制についても、ひとり一人の卒業生の状況に合わせた資格合格プログラムを策定して万全の体制をとっている。	各学科、資格合格に向けての資格対策プログラムを構築しており、確実に資格取得合格率は向上している。学園全体で国家試験対策センターを設置しており、年に数回の、資格対策研修会、勉強会に全教員が参加して、資格合格に向けての指導方法、指導体制について共有して常に改善、向上を図っている。		
3-12-1,2,3 資格・要件を備えた教員を確保し、教員の資質向上の取組みを行っているか。	3	学校長、事務局長、教務部長が中心となり、毎年度の事業計画に合わせた教員採用計画を立案、実施している。その際には、様々な団体や業界関係とのパイプを活用して採用を行い、採用規定に準じた採用となっている。	教員の資質向上を目的とした研修は校内や外部団体の研修会など数多く実施・参加している。担任研修、カウンセリング研修、新入職研修など、経験や部署に対応したプログラムになっている。事業計画作成時に研修対象者を選定し、職員の資質向上も計画的に行っている。学園で組織しているFD(Faculty Development)が行っている授業力(講義力)研修では、新任教員に対し教授法、クラス運営開発をテーマとした資質向上を図っている。			

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
4 教育成果	4-13-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3		7つの項目で毎月15日と月末に定点観測を行い問題を抽出し、対策を立てて実行している。また、就職模擬試験、自己分析ガイダンス、就職年次保護者会、業界模擬面接会、校内採用説明会などの就職行事をフローで行うことにより就職者率の向上を図っている。就職指導に関する教員向け研修を実施し、対応力の強化体制も取られている。	定点チェック項目 ①卒業年次在籍者数 ②就職希望者数 ③内定者数 ④専門職就職者数 ⑤月別内定シミュレーション ⑥求人件数(職種別、有効求人数) ⑦学生就職活動状況表(学科別)	3・2・1	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の活躍の場や情報を知ることは、在校生にとって将来像をイメージしモチベーションを高めることができる有効な手段だと思います。 資格取得率の向上が年々、工夫されていると思う。更なる、資格合格率目指しての取り組みに期待します。 就職率向上、資格取得率向上に向けて適切な強化体制が取られていると思います。 就職対策の模擬試験や保護者対象の説明会は、学生及び保護者の不安を取り除く大きな効果があると思います。これによって不安が取り除かれて安心して本試験に臨める効果は大きいものと思います。成績不良者の対策で個別指導講座の開設も評価できます。 引き続き離職をしない教育指導対策を求めます。 就職率の高さは大変評価できる。
	4-14-1 資格取得率の向上が図られているか	3		事業計画において、単年度及び5年後までの取得率目標を設定している。前年の資格取得率の結果や、当該年度の学生の個別状況に合わせて、授業担当講師とコミュニケーションを取りながら、授業内容の改善、カリキュラムの変更などを臨機応変に行っている。また、成績不良者に対しては個別補習をタイミングを見て開講している。	学生への具体的な取り組みは、過去問題の解答・解説を作成し週に数回の補習を実施、その後模擬試験を行い、点数の伸びない学生には少人数制の補講を行うなど、全員合格に向けて指導体制の強化を実施しているが、今後も更なる工夫が必要である。 学園グループ校の同一学科と構成している教育部会では、テキストの作成やe-ラーニングへの作問、統一模擬試験作成など学園のスケールメリットを活かし、資格合格率向上への取り組みを継続している。		
	4-15-1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3		卒業生についてはキャリアセンターが中心となり、業界訪問時や同窓会組織を通じ活躍の把握をしている。在校生は担任による指導、面談の中で学校内外での活動に関し、支援体制を取っている。	最近では学生が、外部の学会で発表する機会もあり、教員が同行するなど学校を揚げて支援を行っている。その学会にて、卒業生が発表しているなど、活躍を知る機会も多い。 ・日本医療秘書学会学術総会(医療秘書科在校生) ・日本ロービジョン学会(視能訓練士科在校生、卒業生) ・東京都臨床工学技士会(臨床工学技士科在校生)		

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
5 学生支援	5-16-1 就職に関する体制は整備されているか	3		学科別に年間の求人ピーク時期を考え、そのピーク時期に合わせて就職行事を設定して、全学生が就職できる体制を取っている。また、学校独自の就職テキストを作り、全学生に配布して就職活動で活用できるようにしている。	就職指導のフロー 履歴書の書き方→業界研究の方法→就職模擬試験→自己分析→保護者会→業界模擬面接→校内採用説明会→未内定者個別指導		<ul style="list-style-type: none"> ・勉強のみならず、学園のスケールを活かした心と体の健康もサポートするトータル支援が素晴らしい。特に、親元を離れて暮らす学生、保護者にとって安心して学べる心の支えとなっています。地方の学生が多い理由が理解できます。 ・専門学校の退学者の水準が一般に10%と示す中、本校の3%台は素晴らしいと思う。学生支援の取り組みが上手く機能されている証だと思う。より高いレベルを、目指して欲しい。 ・出席率の向上も、目標に掲げて欲しいです。既卒者支援については、企業との連携強化を推進される事を望みます。 ・精神面トラブルでの退学率や離職率の関係をどう対策していくかは、今後も重要な問題だと思われる。 ・保護者との情報交換で学校の授業内容や学生の実態を確実に伝えることは大きな支援になるものと思います。学校や学生の実態がつかめなければどんな支援も意味のない支援になると思います。ただ学生の支援は授業や補習（欠席者の対応・中途退学者の対応）ばかりでなく、学校生活（課外活動・自主的なボランティア活動）や学校を離れた場合・アルバイトや奨学金制度にまで及ぶ幅広い分野ですから限がない中で努力に敬意を表します。 ・就職支援体制や卒業生への支援体制、経済的支援体制など、学生が学びやすく就職できる環境を整えていると思います。
	5-17-1 退学率低減の為の取組みを行なっているか。	3		年度の初めに、学科ごとの目標を立てている。その際、前年度の退学者の傾向を分析し、対策を立てたうえで、目標数字を決定。また、年度の終わりには、進級・卒業判定会議資料として進級者名簿・数と退学者名簿・数、退学時期、退学問題分類・詳細、その結果を受けた学科総括と次年度対策案を書類として作成している。	学生の問題は多様化・複合化しており、学校全体の支援体制が必須となる。問題を早期発見をすることと、問題の内容に対応できるサポート体制を確立することが退学率の低減に繋がると考える。		
	5-18-1.2 留学生支援も含め、学生相談に関する体制を整備しているか。	3		留学生に関しては、学生サービスセンターが法人内に設置している国際センターと共同し、在留資格の取得・更新等の各種入国管理局に対する手続きや生活、言葉の不安に対応できる体制を取っている。また、日本人学生も含めて、①精神面②学費③健康面などの相談を受入れる体制を整備している。	担任がひとり一人に合わせて細やかに支援をすると共に、滋慶トータルサポートセンター(学校運営の学生相談室)や進路に迷いが生じたときの進路アドバイザーと連携した相談体制が近年の退学率減少に結びついていると考える。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3		学生の経済的側面の支援は、完成している。法人の教育を受けたフィナンシャルアドバイザーが常駐し、入学から卒業までの学費相談を行っている。	教育行事にあわせ、マネー教育の実施やシラバスの提供にも取り組んでいる。特に、半数を占める社会人入学者に対しては入学前から個別に、生活費・保険・年金を含めた相談を実施している。H26年度はその取組みの一つとして年金の学生特例納付制度の代理申請窓口として認定を受けた。		
	5-19-2、3 学生の健康管理や、学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。	3		学園が運営する「慶生会クリニック」「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と心の健康管理をしている。毎年実施する健康診断で再検査になった際に慶生会クリニックにて再検査を受けることができる。また、学園本部では学生寮の運営もしており、寮生については寮長と担任が情報の共有をしている。	健康診断時には、医療機関への実習を視野に入れ、抗体検査やB型肝炎ワクチン接種も行っている。インフルエンザのワクチンは他の医療機関に比べ安価で接種ができる。寮長以外に寮本部には生活アドバイザーがおり、寮生の緊急時の対応にあたっている。		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3		社会環境の変化により、働きながら学びたいというニーズが増えてきており、「ワーク&スタディ」制度を確立している。また、医療業界のニーズに合わせて「チーム医療研究会」を発足し、活動の支援を行っている。	救急救命士科に関しては特に活動が活発であり、救助訓練の大会への参加や、JPTEC勉強会への参加、地域消防団活動などに学校が積極的に関わり支援をしている。		
	5-20-1 保護者と適切に連携しているか。	3		入学前に第1回目の保護者会を行い、学校生活に関すること、学習や資格取得、就職に至るまでのフローを理解していただく場を設けている。全体説明だけでなく、学科別、個人別の対応も行い安心して入学をしていただける取組みを行い、入学後も定期的実施している。実習前、就職活動前には学生と同様に保護者向け説明も行う学校と保護者で学生を支えていく支援体制を取っている。	約半数の学生が奨学金を利用しているが、貸与を受けた奨学金の使用用途、返還の際の滞納が社会的に問題となっている。奨学金募集時に保護者向けにも説明会を行い、趣旨を理解した上で申し込みをしていただくよう働きかけている。		
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	3		卒業時に卒後教育プログラムの内容、スケジュールを明示し積極的な参加を促している。卒業後にも学習や研究ができる場の提供をしている。資格不合格者には、卒業後も合格まで補習等無償でサポートしている。	全卒業生に対して、半年後にはメール、1年後には電話にて就職してからの状況確認を行っている。卒業生が在職している先への業界訪問時には、本人と直接話をする事で、悩みや不安の相談に至ることもある。キャリアセンターが永続的に就職支援を行うのも大きな特徴である。		
5-21-3 社会人経験者のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3		学則にて入学前の履修の単位認定について定めている。修業年限を配慮した大卒等を入学要件とした学科を設置している。本校は学生の半数が社会人経験者であり、既卒者向けの体制は確立されている。	大卒等を対象とした学科は人気が高いが、入学希望者の年齢層が高いという現象が起きている。就職支援の際、受け入れ先での年齢の目安や指導が難しく、キャリアセンターにて手厚い支援を行っている。			

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
6 教育環境	6-22-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	国家資格系の養成施設として認可を受けており法令遵守が大前提となる為、施設・設備の設置状況に問題は無い。実習室に設置されている機器は、臨床実習および就職で医療現場に行った際に学生が戸惑う事の無いように、現場で多く使用されているものを取り入れている。	医療制度や職域の変化に対応できるよう、新しく機器の導入を行っている。実際の現場をイメージできるよう、実習室も臨床現場に近いものとしている。ひとり一人の学生がより長く、実習機器に触れることができるよう設置基準を上回る数の機器を導入している。	3・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・建物的には若干の古さを感じる部分はありましたが、清掃が行き届いており、きちんと整頓され気持ちよい教室でした。また、現場と同じ新しい機種と古い機種の両方を学べる配慮がされており、最高の環境であることがわかりました。 ・教育環境は特に問題なく充実していると思う。防災安全システムが整備されており、安心して学園生活が送れていると思う。 ・設備が新しく、充実していると思います。 ・法令厳守の学校教育環境が特に求められているのが医薬系の学校です。その環境が整えられ実社会で取り入れられている最新の機器での学習環境は大いに評価できます。また海外での研修制度で他国他民族との触れ合いは、これからのグローバル社会に適合した人材の育成する環境だとも思います。 ・教育用の設備機器も大変充実していました。学外実習の体制や防災に対するの備えもしっかりしていて学生が安心して学べる環境だと思います。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	学外実習は、法定実習はもとより他実習についても明確に教育課程上に位置づけられている。実習実施に際し、要綱やマニュアル、評価基準を明確にし、受け入れ先医療機関や企業等と綿密な打合せの上、実施している。海外研修は、国際教育という理念に基づく主要な教育実践の場と言える。海外研修は、学園の考えでもある「国際教育」を実践するものであり、渡航先に関し、各学科の目指す業界に対して一番の先進国であり、そこでの活動を十分に体験出来ることを前提に選定している。	学外実習や海外研修を行うことは、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。但し、海外研修に関しては、経済的に厳しい状況の学生も多く全員参加には至らない為、「国際教育」を実践できる内容で「国際性講座」も実施している。		
	6-24-1,2 防災に対する体制と学内における安全管理体制が整備されているか。	3	防災マニュアルを整備し、災害の種類による対応と防災訓練を行っている。管理会社も訓練に参加し、訓練内容の評価をし継続的な改善に役立てている。防災・防火に関する点検は法令に基づき実施をしている。緊急地震速報システムの設置、学生・教職員に対する安否確認システムを導入している。	学園のスケールメリットを生かし、関東で震災が起きた場合には関西に災害対策本部を設置する等、学校単位ではなく学園全体での防災体制が確立されている。学内での取組みとして、通常の防災訓練以外に、防災士と救急救命士科主導による救助訓練を行い将来、医療従事者となる学生への問いかけとなるような機会を設けている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校に対し教育活動等の情報提供を行なっているか。	3		教育活動の情報や在学生・卒業生の状況は高校訪問にて随時情報提供を行っている。また、高等学校等で実施している進学説明会に積極的に参加し、本校の教育活動の情報を提供している。教員・保護者に向けたパンフレットも作成し、学校情報の提供を積極的に行っている。	在校生の成績報告や卒業生の就職・資格取得実績を定期的に報告している。また、中途退学などで目的が達成できなかった学生に対しても、出身高校と情報を共有し、教育内容の不足点や改善点のあぶり出しをして今後の関係強化をはかっている。卒業研究発表会の代表学生の出身校には案内状の送付もしている。	3・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢高い入学希望者は日中のオープンキャンパス等に参加できないケースが多い。それら個別の事情に合わせて説明会等を開催している点は相手の立場に立っている取り組みで感動しました。 ・少子高齢化が進む中、一方では志願者率を上げるために、学校側は大変な努力をされていると思う。継続的な努力は勿論ではあるが、更なる工夫が必要不可欠。 ・引き続きオープンキャンパスやインターネットでのアピールを積極的に行って欲しい。 ・オープンキャンパスを、多く実施され、ホームページ等のパブリシティも充実していると思います。 ・現在の高校生の在籍人数が2018年に急減する2018年問題が、多くの大学や短期大学、そして専門学校に間違いなく襲いかかってきます。この大きな波を乗り越えなければ学校の存在そのものが危うくなります。ますます高校との連携と信頼関係の構築に期待します。徹底的に学生を鍛えて医薬系の就職支援をしていることを、もっとアピールすればいいと思います。 ・適切に実施されていると思います。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行なっているか。	3		本校は東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（推薦入試による受け入れ人数等）を遵守している。志願者からの問い合わせに関して、あいまいな事は入学事務局から改めて連絡するようしており、不確実な事が外部に伝わらないように徹底している。個人情報管理については学科毎にひとり一人の受験生の情報をファイリングし、厳重に保管している。体験入学・オープンキャンパスなどは毎週定期的実施しており、時期ごとに志願者の趣向にあわせた内容で実施している。	志願者からの問い合わせに混乱なく迅速に対応するために専用の連絡先を設置している。通常の体験授業以外にも志願者の趣向にあわせたオープンキャンパスを実施している。 (社会人対象・平日個別相談・夜間授業見学・学費相談説明会など)		
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行い、選考に関する実績の把握ができていますか。	3		入学選考に関しては、基準を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。可否の判定体制に関しては学校長・事務局長・教務部長・広報センター長・全学科長により構成される「選考会議」にて可否を確定する。面接・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果をふまえて総合的に判断している。合格者及び辞退者等の現況を示すデータは入試選考毎に蓄積し、適切に管理がされている。毎年入学者・非入学者のアンケートを実施し、入学者の傾向の把握に努め、授業方法などの検討材料としている。	将来の希望分野への適性を適切に見極めるため、面接試験の比重を多くしている。結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に繋がっている。		
	7-27-1.2 学納金は妥当なものとなっており、入学辞退者に対し適正な取扱いを行なっているか。	3		学納金は妥当なものとなっていると考えている。増税後も、授業料の見直しは行わず、予算管理を徹底し無駄な支出が無いよう厳しく確認をした。東京都専修学校各種学校協会の基準に基づき、募集要項に入学辞退の際の返還の基準を明確に記載している。	増税に伴い、予算は厳しいものではあったが業者や使用教材、講師に至るまで見直しをかけ支出を抑える努力をし最終的には学納金が妥当であったと判断できた。今後も継続的に見直しを行っていくことで授業料を下げることも視野に入れていく必要があると考える。入学辞退者の取扱いは慎重に行っており、入学事務局が学費の取扱いを説明をしたうえで辞退処理をしている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
8 財務	8-28-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	5年間の中長期的事業計画を取支計画と合わせて作成している。連動させて作成することで財務基盤の安定は常に確認されている。	学校運営と予算の遂行が、計画通り行われているか収支予算書をもとに確認を行っている。また、社会のニーズの変化に応じて、新学科の設置や設備投資についても計画し予算を立て理事会にて承認を得たうえで実施をしている。	3・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・5年先を見据えて収支計画を立てていることが健全な運営につながっていると思います。 ・中長期事業計画及び収支計画により予算を立て、しっかりと財務基盤がとれている。また、会計監査、財務情報公開に関しても、対応が万全であると考えます。 ・適切な財務処理が行われており、公認会計士により会計監査も実施しています。評議会・法人理事会で計画された事業計画通りに運営がなされています。 ・財務の管理体制もしっかりととらえていると思います。
	8-29-1,2 教育目標との整合性を図り単年度予算、中期計画を策定し適正に執行管理を行なっているか。	3	教育目標と整合性を図り、5ヵ年の収支予算を作成している。作成した収支予算は学園本部とも協議をし見直しを行い、必要に応じて年度途中でも理事会の承認を得た上で修正をしている。	単年度予算については、より詳細に部署別に落とし込んで作成をしている。執行状況は毎月行う運営会議で確認し、教育目標と照らし合わせ、予算超過が見込まれる場合にはその場で対策を講じている。		
	8-30-1 財務について会計監査が適正に行われているか	3	公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会および評議員会においてその報告をしている。	私立学校法上、義務付けられている「監事における監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	8-31-1 財務情報公開の体制整備はできているか	3	私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。外部関係では寄付行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程および情報公開マニュアルを整備し、財務情報公開をしている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、情報公開に対処している。HPに財務情報公開済み。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
9 法令等の遵守	9-32-2 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令遵守を学園の方針に掲げており、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の基に、コンプライアンス委員会を設け、学校運営が適正であるかどうか判断をしている。	保有学科の半数以上が国家資格系学科であり、教職員の法令遵守の意識は高い。学校責任者および申請担当者に向けて学園のコンプライアンス委員会から情報発信を行い、必要に応じて研修実施や業務支援をしている。	3・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、教職員に対する研修等、学園全体の取り組みは大変すばらしいと思います。あわせて近年、問題になっている「ハッキング」や「ウイルス流出」など外的要因による予期せぬ情報流出にも引き続き注意喚起をお願いします。 ・今後は、コンプライアンスに関しては重要、特に個人情報の管理がマイナンバー制度の導入により慎重に取り組まねばならない。 ・委員会などにより法令遵守に向けて、積極的に行われている。今後も、引き続き積極的に取り組んでもらいたい。 ・国家資格を取得させることを目的とした学校であり、その目標にそって授業が展開されていますので法令順守には何の問題もありません。また学校評価委員会による委員会で自己評価・自己点検を検証するなどその姿勢も大いに評価できます。 ・法令等についても遵守されているとおもいます。
	9-33-1 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	就業規則に個人情報保護を明記するとともに、教職員に対し研修を実施している。学園の中に「個人情報保護委員会統括事務局」を置き、個人情報保護管理体制の継続的改善に取り組んでいる。	外部機構の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年ライセンスを更新している。個人情報特定の為の洗い出しを行い、教職員に何が個人情報に該当するのか認識をさせると共に、保管方法・保管期限を考える機会を設けている。		
	9-34-1.2 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努め、その結果を公表しているか。	3	自己点検は平成15年度より行っており、平成17年には、自己点検・自己評価についての方針を常務会にて打ち出し、その方針のもと平成18年12月に委員会を立ち上げた。毎年評価を行い、H26年度は第2回目の第三者評価を受けた。	自己点検・自己評価を実施する中で見えてきた改善項目は学校責任者を中心に関係部署リーダーにて対策を検討している。評価結果は学校関係者保護委員会にて更に評価を得た後に、HP上に公開をしている。		
	9-34-3.4 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価結果を公表しているか。	3	学校関係者評価委員会を実施し、自己点検・自己評価の報告をし、更に評価を行っている。評価結果についてはHPにて情報公開を行っている。	HP上、評価結果を含む各種情報公開のメニューを探しやすくトップページに表示しているが更にメニュー表示の改善を実施予定。		
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	3	H26年度までに9学科が職業実践専門課程の認定を受け、HPの情報公開に教育内容の公開を行っている。教育行事の取り組みは学校・学科ブログ等でも情報の公開を積極的に行っている。	教育の特色は、文章だけでなくブログやフェイスブック等の写真を用いたツールの利用で効果的に情報公開ができています。		

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3		本校では学校の存在価値として4つの信頼を掲げている。その中に地域からの信頼を掲げ、社会貢献、地域貢献に積極的に取り組み、地域の方々からの信頼を得られる事を行動の指針としている。	<p>具体的な取り組み例</p> <p>1) こども心理科 週1回こども教室を行い、本校近隣在住の1歳児から5歳児の乳幼児が来校。保育活動の実践を通じて保育力を身につけている。</p> <p>2) 言語聴覚士科 就学前の言葉の発達に問題を抱える幼児を対象として、言葉の発達の支援を実践している。</p> <p>3) 視能訓練士科 浦安の小学校の眼科健診補助を毎年行っている。</p> <p>4) 救急救命士科 救命救急講習やAED講習等行っている。</p> <p>また、「メディカルフェスティバル」は学生にとってキャリア教育と位置付けているが、地域の方には医療や健康について考えていただく機会になったと考える。</p>		<p>・社会貢献の活動や、ボランティア活動を通じ、授業では学ぶことができない人とのつながりを体験できる体制が取られていると思います。</p> <p>・学生が在学中に多岐にわたってボランティア活動を実行しています。これは地域にとっても学生を受け入れている各施設でも大いに歓迎されていることです。学生が自分で出来る範囲で行動する、これこそが社会貢献だと思います。同時に海外に短期間であっても活動の場を求める姿勢は高い評価が出来ます。中体連・高体連・高野連主催の大会及び各都道府県体育連盟等が主催する行事に、学生を経験すると社会貢献と募集の面で効果あるものと思います。</p> <p>・地域に根ざした地域貢献・社会貢献を実践されています。地域からも、信頼されていることが伝わってきました。</p> <p>・ボランティアを積極的に取り組み、社会貢献への強い意志を感じる。引き続き、努めてもらいたい。</p> <p>・社会貢献、地域貢献に積極的に取り組んでいると思う。今後は、もっと色々な分野でのキャリア教育を拡大して欲しい。ボランティア活動も同様に期待しています。</p>
	10-36-2 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	3		本校は建学の理念の一つとして「国際教育」を掲げている。海外研修はこの理念に基づく主要な教育実践の場になっている。各学科の特長、特色に合わせて、海外研修先を選定し、1週間程度のプログラムで、実施している。また、海外数箇所に学園の現地事務所を設け、学園内組織である国際教育センターを窓口とし、積極的に留学生の受け入れを行っている。	<p>教育体制は、必ず渡航前の実習前教育と渡航後の実習後教育を実施し、動機付け → 海外研修 → 振り返り → 共有のプログラムを行うことで、海外での学習・異文化体験がしっかり経験として生かされるよう取り組んでいる。</p> <p>但し、経済的事情により海外研修に参加できない学生もいる。国内にて実施する国際交流プログラムを更に充実させていく。</p>	3・2・1	<p>・学生が座学のみならず、実学を通じて社会貢献できる機会があることは、とても良い経験です。逆に、それだけ受け入れ施設があるという事は、地域との信頼関係が構築されている証で、さすが伝統の東京医薬専門学校だと感じました。</p> <p>・社会貢献・地域貢献に積極的に、取り組んでいると思う。今後は、もっと色々な分野でのキャリア教育を拡大して欲しい、ボランティア活動も同様に期待しています。</p>
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し活動支援を行なっているか。	3		ボランティアは積極的に推奨している。特にこども心理科、言語聴覚士科、歯科衛生士科、救急救命士科は、ボランティア実績が多い状況になっている。こども心理科は1年次に、年間のスケジュール内にボランティア期間を定めて、全学生が保育所でボランティア活動を体験するプログラムになっている。	<p>ボランティアについては積極的に取り組んでおり、学生の職業観の形成、キャリア教育の大きな成果を上げている。今後も積極的にボランティアに取り組むと同時に、システム化して、プログラムの1つとしてボランティアを位置づけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症友の会（言語聴覚士科） ・葛西近隣病院避難訓練(全学科) ・葛西地区お祭り防災ブース(救急救命士科) ・東京都臨床工学会(臨床工学技士科) ・フッ素塗布事業運営補助(歯科衛生士科) など 		<p>・社会貢献の活動やボランティア活動を通じ、授業では学ぶことができない人とのつながりを体験できる体制が取られていると思います。</p>